

働くことの意義を考える

－仕事に臨む心構え－

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林 明夫
(経済同友会 幹事)

1. はじめに－自己紹介－

－自己紹介を兼ねて、私の好きな言葉を紹介します。－

- (1) 「^{じ た きやうえい}自他共栄」…自分も他人も共に栄えよう
 - ・ 中学時代(足利市立山辺中学校)の柔道部監督 椎名弘先生
- (2) 「ブルドック ^{だまし}魂」…食いついたら離すな
 - ・ 中学2・3年生のクラス担任岡田忠治先生
- (3) 「一所懸命」…一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう
 - ・ 高校時代(栃木県立足利学校)のマラソン大会の合い言葉
- (4) 「^{どくりつじそん}独立自尊」…国や個人は独自で立って、自らを尊いものだと考えることができる
 - ・ 大学(慶應義塾大学)時代に、創設者である^{ふくざわゆきち}福沢諭吉のことばを学ぶ
- (5) 「一生青春、一生勉強」
 - ・ 足利在住の書家、^{あいだ}相田みつを先生
- (6) 「会った人は皆友達」…一期一会(いちごいちえ)、一つ一つの出会いを大切に
 - ・ 京都 ^{いっとうえん}一燈園、石川洋先生

2. 仕事の内容－社会的活動も含めて－

- (1) 株式会社 開倫塾 (代表取締役社長)
 - ・ 栃木県足利市に本部のある、小学生、中学生、高校生を対象とする学習塾。栃木県を中心に、群馬県、茨城県の3県に44校舎、6000名の塾生。
 - ・ 経営者としての仕事 ①意思決定 ②実行
- (2) マニー株式会社 (取締役－社外取締役－)
 - ・ 栃木県宇都宮市の清原工業団地に本社のある医療用器機の会社。ベトナム、ミャンマーにも現地法人－工場－を持ち、世界最高の品質を全世界に提供。
 - ・ 経営者の仕事(①意思決定 ②実行)の監督
- (3) 宇都宮大学大学院情報工学研究科 (非常勤講師)
 - ・ 大学院生の教育
- (4) 栃木県社会教育委員 (栃木県教育委員会)
- (5) 教育制度改革懇談会委員 (宇都宮市教育委員会)
- (6) 特別養護老人ホーム 清明苑 (理事)
- (7) 東日本高等学院 (評議員)
- (8) 開倫ユネスコ協会 (会長)

- ・ UNESCO 国際連合教育科学文化機関

「心の中に平和のとりでを」

- ・ 「人間の安全保障(Human Security, ヒューマン・セキュリティ)」の促進

↳ 「保護(Protect, プロテクト)」と「能力強化(Empowerment, エンパワーメント)」

(9) 開倫研究所 (所長)

(10) CRT(ラジオ栃木放送)「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25am 一人で担当(18年目)

「効果の上がる勉強の方法」についての専門番組(社会人も含めて)

3. 仕事を選んだ理由

(1) 開倫塾

① 大学時代に、刑事政策(犯罪の原因と対策)を研究するために刑務所や少年院などの矯正(きょうせい)施設を訪れたとき、多くの刑務所長や刑務官の先生方に「学校でちゃんと勉強していれば、このような所に来なくても済んだのに」と言われたことが心に残っていたため。

② 司法試験を何回も受験したが、合格しなかったため。

③ 大学時代に、司法試験を受験しながら、アルバイトで学習塾・予備校の講師、家庭教師を毎日していたため。

④ 教えることが大好きだったため。

(2) マニー株式会社 etc(など)

① 依頼されたため。

② やりがいのある仕事と考えたため。

③ 各々の社会的使命(mission, ミッション)を果たすことが、世の中の役に立つと考えたため。

4. 仕事をしてうれしかったこと

(1) 「仕事」とは、顧客にとって「問題解決」になること。

・ 「仕事を通して顧客の成功の実現に貢献できること」が、仕事をしてうれしかったこと。

(2) そこで働く人々の「能力強化(Empowerment, エンパワーメント)」に役立ち、「雇用の維持」につながる。「自己実現」に役立つこと。

(3) 仕事を通して社会の人々のお役に立ち、社会が少しずつでもよりよくなること、社会の発展に少しでも役立つこと。

5. 中学時代の夢

(1) 弁護士になること

- ・ 弁護士になって、人権の空白地帯を少しでもなくすこと。

ーそのために心掛けたことー

① 弁護士になるには、司法試験に合格し、司法修習を修了して弁護士登録をしなければならない。司法試験に合格するには、司法試験を受験しなければならない。司法試験を受験するには、大学の教養課程を修了するか、同等の試験に合格しなければならない。

そこで、司法試験に合格者を多く出す大学に進学する必要がある。そのような大学に進学する人が多い高校に進学する必要がある。家から通えるところといえば、栃木県立足利高校がよい。中学2年生のころに、行きたい高校を決めた。

① 新聞を毎日1時間以上読んで、社会で何が起きているのかを考えた。

③ 高校に入るところから、岩波新書など新書版の本を毎月何冊か読んで、社会で何が起こってい

るのかを考えた。

(2) 英語が話せるようになること

- ・英語が話せるようになって、世界の人々と交流すること。

ーそのために心掛けたことー

- ① NHK の活用…基礎英語、ラジオ英語会話、(高校生)TV 英会話。
- ② ペンフレンドとの文通(フィリピンの大学生)。

(3) 柔道が強くなること

- ・毎日練習。 ・「練習で泣いて、試合で笑え」。

6. 中学時代に身につけておくことよいこと

(1) 「躰(しつけ)」

- ① 美しい立居振舞い(たちいふるまい)。
 - ・服装第一。「服装は、相手、他人のため」という場合があることも知ろう。
- ② 敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)
 - ・「です・ます」調で話ができることを、まずは身につけよう。

(2) 「病氣」になりにくい体づくり

- ① 健康とは、「心の健康」と「身体の健康」。
 - ・「早寝、早起き、朝ご飯」。
 - ・「病氣」とは闘うこと。闘って自分の力で少しでもよくすること。Never Give Up(ネバー・ギブアップ、あきらめないこと)。
- ② 「いつまでも若々しく生きる」。(105 歳まで生き続けよう)

(3) 「よさ」を率直に認める能力、「よさ」を伸ばす能力

- ① 地球のよさ ② アジアのよさ ③ 日本のよさ ④ 東京のよさ ⑤ 墨田区のよさ
 - ⑥ 立花中学校のよさ ⑦ 友達のよさ ⑧ 家族のよさ ⑨ 自分自身のよさ、素晴らしさ。
- ・「よさ」をそのまま素直に受け取り、どんどん伸ばそう。

(4) 新聞を毎日 1 時間読んで考える能力

- ① 世界や日本、東京や地域の問題点を新聞社の厳しい目でとらえ、その原因や対策も含めて報じ続けるのが新聞。
- ② TV やラジオ、雑誌、インターネットなども活用しながら、世の中の問題を自分のこととして考えよう。
- ③ 日本は、世界でも有数の質の高い新聞が簡単に入手できる国の一つ。前日の新聞を家族からもらい熟読しよう。週に 1 回は図書館で新聞を読む習慣を身につけよう。

(5) 読書の量を少しずつ増やし、自分の力で考える能力

- ① 本を、ゆっくり、じっくり読み、自分の力でものごとを深く考える能力を身につけよう。
- ② 学校の教科書に名前が出てくるような人の本を読むようにするとよい。
- ③ できれば、同じ本を 3～6 回読むとよくわかり身につく。
- ④ 気に入った文章に出会ったら、「書き抜き読書ノート」にメモをしておく。「書き抜き読書ノート」は、一生の宝物として、何十回も、何百回も繰り返して読み、考える。

(6) 自己学習能力(自分で勉強する能力)

- ① 授業で、「うんなるほど」と「理解」できる能力。
 - (a) 欠席、遅刻、早退、忘れ物をしない。
 - (b) 居眠り、おしゃべり、携帯電話などをしない。

- (c) メモを取ること。(「定着」のときに使えるノートがつかれること)
- ② 「うんなるほど」と一度「理解」したことを、自分の力で身につける「定着」させる能力。
- (a) 「教科書」「副教材」「ノート」を何十回、何百回も「音読」し、何も見ずに正確にスラスラ言える。
- (b) 何も見ずに正確に言えるようになったら、何も見ずに楷書(かいしょ)で正確に書けるようになるまで何十回、何百回も書き取り練習をする。
- (c) 一度なぜそうなるのかを「理解」した簡単な「問題」は、何回、何十回も練習して、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまでにする。
- ③ 「理解」し、「定着」した内容を、「応用」できる能力。
- (a) テストで合格点が取れる。
- ・なぜ間違えたのか、「理解」が不足か、「定着」が不足か、「応用練習」が不足か、その原因を推定し、不足分を自分の力で補う。「理解」が不足で、自分ではどうしてもわからなければ、先生に質問する。
- (b) 実際の社会で役立つ。
- ・身につけた内容をどんどん使ってみる。

7. 求められる人材とは一今、どのような人材が必要とされているかー

- (1) 健康な人…身体と心、ともに健康。健康でないと、よい仕事はできない。
- (2) 規範意識を身につけている人…ルールの中でプレイができる人
- ・ 犯罪を犯す人
 - ・ 道徳に反する行為をする人
 - ・ 約束を守れない人
- 「ルール」を知る努力を。(知らないでは済まされない)
- *ただし、一度失敗をしても、十分反省して悔い改めれば、再チャレンジは誰でもできる。
- (3) 基礎学力が身につけている人…勉強の仕方を身につけている人
- ① 義務教育(小学校、中学校の勉強は、一生役に立つ)
 - ② 高校教育(高校の勉強は、もっと役に立つ)
 - ③ 大学、大学院、専門学校での教育
 - ④ 社会教育(社会に出ても勉強)
- 各々のステップで、「勉強の仕方」を工夫すること。「自分なりの勉強方法」を少しずつ身につけること。
- *勉強はいつからでもできる。「本人の自覚」が一番大事。
- (4) 英語とコンピュータは不可欠。(練習、練習、また練習!!)
- (5) 専門分野に精通していること。(日本一、世界一をめざすこと)
- (6) お客様の立場で、ものごとが考えられること。(「問題解決」をめざすこと)
- (7) 自分の仕事の「社会的使命(mission, ミッション)」を十分知っていること。いつも考えていること。
- (8) 「勉強し続ける人」 = 「教育ある人」(死ぬ前日まで勉強)。
- ・ よりよく生きるには、勉強し続けることが一番よい。
- (9) 自分のことは自分で決める。(自己決定)
- 自分のことは自分で責任をとる。(自己責任)
- 「チームプレイ」とは、他人をあてにせず、自分のポジションは完全にできる人が力を合わせてするもの。
- ・ そのためにも勉強を。
- (10) 感謝の気持ちで一日一日が過ごせる人。
- ・ 自分以外皆師(先生)。

8. おわりにーどんな仕事に就いたらよいのか(職業観)ー

「Decent Work(ディーセント・ワーク、ちゃんとした仕事)に就くことをめざそう」

(1)「Decent Work(ディーセント・ワーク)」とは

①生活できるだけの収入が得られる仕事。

②仕事を通して自己実現できるもの。

(2)そのためには、今いるところで「一所懸命」に勉強すること。

(3)これからの世の中はどうかを、いつも考え続けること。

・新聞を1日1時間じっくりなめるように読むことは役に立つ。人の話をよく聴く、本を深く読むことも役立つ。

(4)人生は長い。105歳まで生きられる日本に生活することの幸せをかみしめ、あせることなく、自分のよいところを少しずつ伸ばしながら、ゆっくり生きよう。(いつまでも若々しく生きる)

(5)どうしたら人様の役に立てるか、世の中の役に立てるか、自分の仕事の社会的使命(mission, ミッション)をいつも考えることも大切。(自分の力で、仕事の意味やものごとを考える)

以上

御清聴を感謝申し上げます。

質問コーナー

*質問がありましたら、 akio@kairin.co.jp または〒 326-8505 足利市堀込町 145 林明夫までお問い合わせ下さい。